

ラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグ
ラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグ
ラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグ
ラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグ
ラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグ

```
public int indexOf(Object elem) {
    if (elem == null) {
        for (int i = 0; i < size; i++) {
            if (elementData[i] == null) {
                return i;
            }
        }
    } else {
        for (int i = 0; i < size; i++) {
            if (elem.equals(elementData[i])) {
                return i;
            }
        }
    }
    return -1;
}
```

コード1:コード1のタイトル

Point 18 : ソースコードは字下げを適切に行うことで読みやすさに配慮する。

Point 19 : ", <, > &などの特殊文字も文字参照を使って、正しく表示されるようにする。

Point 20 : コード類は本文よりも文字を小さくする。

Point 21 : コードの下部にコード番号とタイトルをつける。

パラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグ
ラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグ
ラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグ
ラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグ
ラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグ
ラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグ
ラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグ
ラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグラフパラグ



図1:図1のタイトル

Point 22 : イメージの圧縮形式に気をつけること。一般的には自然画像ならJPEG、イラスト画像ならGIFが適している。

Point 23 : 本文に対して適切な高さ (height) と幅 (width) を設定する。(高さや幅は、単位を指定)

Point 24 : 図の下部に図番号とタイトルをつける。

Point 25 : 参考文献の文字のサイズは、本文よりもやや小さめにしたほうがバランスが良い。(例は11pt)

参考文献

東京電機大学工学部『情報メディア科学実験室』<http://www.mlab.im.dendai.ac.jp/> 2006年
東京電機大学『東京電機大学』<http://atom.dendai.ac.jp/> 2006年
杜甫々『とほほのWWW入門』<http://www.tohoho-web.com/www.htm> 1996-2006年

Point 26 : 参考文献は通常、著者名、タイトル、出典、年度の順で記述する。

Point 27 : 出典がWEBの場合、URLを記載してクリックすると、別ブラウザが立ち上がり当該サイトに遷移するようにしておくことが望ましい。

※1 脚注
※2 脚注

Point 28 : 本文と脚注の間は<HR>タグなどで区切ると分かりやすい

Point 30 : 文章が複数行の場合でも、文章が脚注番号に回りこまないようにする。(テーブルを使う)

Point 29 : 脚注の文字のサイズは、本文よりもかなり小さめにしたほうがバランスが良い。(例は8pt)